

名古屋大学・韓国国立忠南大学
学術交流協定に基づく日韓共同シンポジウム
(大幸財団第30回国際交流特別助成)

「森林資源の持続可能性と都市の木質化」

12月17日(木)・19日(土)

名古屋大学農学部第7講義室

主催

名古屋大学 都市の木質化プロジェクト
韓国国立忠南大学 都市の木質化研究会

日本の森林は戦後の拡大造林政策により過去に例を見ないほど森林資源量が増加する一方で、木材の自給率は3割にも届かず、利用が進まないことで林業・地場産業は衰退し、森林の手入れが滞ったまま多面的機能の低下や生態系の崩壊を招いています。このため森林資源を有効に利活用し、元気な森林づくり・地域の活性化を進めることが急務となっています。また、都市部においては産業構造の変化等により、人口減少・高齢化、都市機能の低下、無機質な都市空間など、都市居住者の生活の質に与える負の影響因子が増大しています。韓国でも同様の問題が顕在化し始め、近い将来、現在の日本と同じ状況になることが危惧され、対応が求められています。このような森林と都市が抱える問題を解決するため、今回の日韓共同シンポジウムでは、学術交流協定を締結する上記両大学の参加のもと、両国の森林資源の持続可能性を実現するための都市の木質化に関する方策と事例研究に関する情報交換・相互交流を目的としています。

◆お問い合わせ

都市の木質化プロジェクト E-mail: marikoy@agr.nagoya-u.ac.jp

担当：山崎真理子 TEL&FAX 052-789-4147

HP: <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/index.html>



シンポジウムの内容

▶ 13.00-15.00 韓国の森林資源と都市の木質化

韓国の森林資源は、20-30年後に現在の日本と同じような状況になると予想されています。これに対応するため、木材の利用法について備える必要に迫られています。森林資源・木材利用の現状について紹介するとともに、日韓両国の森林資源利用のあり方について考えます。

Prof. S. G. Kang (CNU): Urban wood project & 『Woodism』 …

Prof. M. S. Kim (KAIST): Urban woodism design projects in Korea

金圭庸 教授 (CNU)：韓国の集合住宅における木材の活用

▶ 15.00-17.00 日本の森林資源と都市の木質化

日本の森林資源は、戦後の拡大造林策のもとで蓄積量が豊富な状態になっているにもかかわらず国産木材の利用が進まず、国内の木材需要の80%は外国産材で賄われています。将来の資源分布の予測とともに都市部における木材利用について考えます。

Y. Sasaki: Wood utilization in urban design for sustainable forest

M. Yamasaki: Cultural development of “Wood Urbanism”

K. Ogawa: Achievements and prospects of successor training programs for promoting wood utilization

E. Kojima: Prospects for forest and urban area based on production simulation of forest resources

▶ 17.00-18.00 意見交換会

▶ 18.00-20.00 都市の木質化と火災

都市部に木材を投入するにあたりハードルとなるのが火災の問題です。木質化建築物の火災と耐火性能に関する最新の研究を基に、都市の木質化の可能性について考えます。

講師：桜設計集団・早稲田大学 安井 昇

▶ ポストシンポジウムツアー（12月19日（土））

愛知県中山間地域の森林・木材生産・製材・新旧木造建築群を、林業実務者・建築設計士・棟梁の解説のもと、見学します。これらの建築物に使われている木材の生産地（森林伐採跡地）、製材工場を合わせて見学。地域産材の生産から利用に至るまでを総合的に見学し、森林資源の持続性と都市の木質化について考えます。

コーディネータ：柳澤 力（柳澤一級建築士事務所）

山崎真理子（名古屋大学）